

この先生は、ここ数年のうちに、自分でからっと天ぷらを揚げたのだろうと思う。3年前でも十分な授業力を身に付けていたが、さらに上のステージに進みたいと願い、自分で何とかしたいともがいているところに、タイミングよくたまたま私が現れただけなのだと思う。ちょうど天ぷらを揚げる時機だったのだと思う。

チャンスは逃さないことが大切である。だれにでも平等にチャンスはやってくるそうであるが、気付かなければ、それはチャンスにはならない。チャンスは、気付かずに目の前を通り過ぎていくこともあるそうである。そして、実践したことは「実践ファイル」などに残しておくべきである。後で必ず役に立つときがくる。やりっぱなしは力にはならない。毎年、教員としての履歴を残していくことが重要である。

学習指導案が書ける先生になってほしいと思う。指導案は授業の設計図である。これがおぼつかないようでは、いい授業はできないであろう。いつかどこかで本気で勉強しないと、いつまで経っても書けないままで終わってしまう。勉強は、待っているのではなく自分からするものである。そのための資料や書籍はたくさんある。

教材研究をやってほしいと思う。教材研究の仕方がわからないという教員が多くいるのが現実である。とりあえず教科書会社の指導書と赤刷り教科書を大事にして、よく見ている。資料や書籍で勉強したり「この人だ」という先輩教員を決めて教わったりしながら努力を続けていくと、赤刷り教科書が邪魔になり、指導書もほとんど見なくなっていく。そして、自分なりのスタイルができていく。まずは国（文部科学省）や県（県教委）から出ている資料を見るのが先である。国や県から出ているものは、さすがによくできている。なおかつ、安価か、ダウンロードできるものもたくさんある。あとは、自分で書籍を探すのもよい。

ネットワークとアクションで力量アップを図ってほしいと思う。教員にとってネットワークは大切である。「福島国語の会」などもそうだし、教育センターとのつながり、大学の先生とのつながり、各勉強会等もそうである。ぜひネットワークを生かして、自分の力量をアップさせる教員になってほしいと思う。

アクションを起こせる教員は強いと思う。私の場合だが、今から20年前に「ジグソー学習」に出会い、書籍を読みながら勉強していたところ、その書籍を書いた方に会って話を聞きたくなった。すぐに、静岡県庁の10階に会いにいった。その方は、静岡県教委の指導主事になっていたのである。「モジュール学習」のことが聞きたくて、香川県の先生に電話をしたことがある。作文指導のことで岩手県の先生に電話をし、資料を送ってもらった。「単元を貫く言語活動」を勉強するために、横浜市立並木中央小学校に電話をし、資料を送ってもらったことがある。ポートフォリオのことが知りたくて、横浜国立大学附属中学校に行き、話を聞くだけでなく、1年間にわたり、現物を貸してもらった。思いが強いと、動かずにはいられなくなる。

思っているだけでは何もやらないのと同じである。大切なのは、思いの強さとアクションである。思いの強さが出会いを生む。それは人との出会いであったり、ときには書籍や指導法、実践だったりする。私は今まで、「これだ」という指導法に4回出会うことができた。それはいつも、自分の授業を何とかしたい、自分の授業を変えたいと強く思っているときだった。思いの強さが、何かを引き付けるのだと思う。教員3年目までが勝負である。その後は、天ぷらを食べるたびに、いつ自分の天ぷらを揚げるかを考えてほしい。チャンスが来たら逃さないことである。